

●西来院・安国寺・慈眼院・盛光寺(那覇市首里)



▶写真2 安国寺。決めたことに基づき向かっていくための迷い絶ちに良いとされる



▶写真1 西来院(通称・達磨寺)。門には阿吽(あうん)の仁王様が鎮座。お守りを購入すれば、阿弥陀如来で清めてから手渡してくれる



▲写真4 参拝時の休憩所として那覇市街を一望できる慈眼院の東屋

▶写真3 慈眼院(通称・首里観音堂)。こしの干支・辰の守り本尊で、白い象に乗った慈悲深い「普賢菩薩」を参拝できる



▶写真5 盛光寺。以前は敷地角でアチコアチコの「のーまんじゅう」を販売していたが、今は久場川町に移転

建築家と探す 地域の魅力 ⑪  
文・写真/伊良波 朝義  
(前日本建築家協会沖縄支部会員)

首里城周辺に多くの寺  
干支や守り本尊を祭った寺も

「首里の建築物は？」と聞くと、「首里城」と答える人が多い反面、首里城周辺に寺が点在していることは意外と知られていない。NPO法人首里まちづくり研究会の副理事長も務める伊良波朝義さん(術義空間設計工房代表取締役)に、私たちに身近な干支や守り本尊を祭る4つの寺を案内してもらった。

首里は、1429年から1879(明治12)年の廃藩置県までの450年間、琉球王国の王都として、政治・文化の拠点として栄えた地区でした。

かつて沖縄県には、京都、奈良に次ぐ数を誇る23件もの旧国宝の建造物が存在し、そのうち17件が首里地区にあったことを存じて

しようか。また、第二尚氏王統の菩提寺で、故王の位牌や御後絵を祭っていた琉球随一のお寺である円覚寺や天王寺、天界寺の三大寺をはじめ、首里城周辺には琉球王朝時代に王府が寺を保護していたこともあり、数十を超えるお寺が点在していました。

しかし先の大戦により、ほとんどの建造物は焼失し、旧国宝や国指定重要文化財に指定されていた首里城や玉陵、園比屋武御嶽石門などの一部は復元され、後に世界遺産群として登録されるなど、少しずつかつての風景が再生してきています。

さて、城下町や古い町並みを散策する際、道や建物に使用されている素材や色、形など、あるいは庭の様式がどのようになっているか、観察しながら回るのは楽しいものです。またお寺には、干支を守ってくれる仏様「守り本尊」があり、自分や家族の守り本尊のあるお寺を訪ね、健康祈願や、日ご

る忙しい心身を見つめ直しつつ巡るのもお勧めです。

首里には多くの寺があり、12の寺にそれぞれの干支(首里十二支)がありました。現在は4カ所が預かっています。

首里赤田町にある西来院(通称・達磨寺)、卯・戌・亥の干支が祭られており、健康や病氣回復、子宝や安産、合格の祈願をしに、多くの人が訪れています(写真1)。

首里寒川町にある安国寺は、数少ない由緒ある禅寺の一つで、西の守り本尊・不動明王が祭られており、荘厳な造りの石門や龍が迎えてくれます(写真2)。

安国寺から少し下った首里山川町には、慈眼院(通称・首里観音堂)があります(写真3、4)。旅の安全や祈願成就のために多くの人が訪れます。琉球王朝時代には、江戸への使節団が航海安全を祈願するため、ここを訪れました。ここは、子・丑・寅・辰・巳・午の6つの干支が祭られています。お参りに行った際、合掌犬でお馴染みのコナンくんに会えるかもしれません。

最後は、首里儀保町の住宅街にある盛光寺(写真5)。未・申の守り本尊・大日如来が祭られており、毎月第3木曜日の法話が人気で、地域に根ざしたお寺です。

古都首里の中心部に広がるお寺を、休みの日や出勤前の早朝に、日ごろの運動不足の解消もかねて歩くことで、琉球王国時代から続く歴史や文化に触れてみてはいかがでしょうか。

毎月第4金曜日に掲載

※参考資料「那覇まちまいい(那覇市観光協会)、古都首里の風景のあるまちづくり(首里まちづくり研究会)」